

「関歴研参加記」

—「水戸愛」にあふれた地で—

中央大学附属横浜中学校・高等学校 柴 泰登

令和7年度 関東歴史教育研究協議会茨城大会

2025年12月6日(日)、茨城県三の丸庁舎にて開催されました。今回は午前に授業実践報告が2本、午後に講演と史跡踏査が行われました。

まず、午前に行われた2本の研究発表は以下の通りです。

丸小野壮太先生(常磐大学高等学校)

「いかに『歴史総合』と『世界史探究』を接続できるか

—開かれた古代地中海世界史研究を手がかりにして—

鈴木詩織先生(茨城県立三和高等学校)

『『母性』概念を問い直す日本史探究の授業実践』

最初の丸小野先生の発表では、まず歴史総合の年間計画を10(移動する人々、産業革命、アイデンティティなど)のキーワードを選択して立てるという試みが斬新でした。一方、世界史探究においては、探究プロジェクトと称する協働型授業を年間計画に随時挿入し、一貫した学習プログラムを組んでいる点が印象的でした。

次の鈴木先生の発表では、『『母性』は良いもの？悪いもの？』というMQを立て、生徒が素朴概念として「良い」と考えがちな母性について、ジェンダーの歴史を紐解きながら再考を迫る内容でした。質疑応答では、この授業後の生徒の変容が男子と女子で有為な差があるというご報告もあり、非常に興味深い発表でした。

午後に入ると、まず千葉真由美先生(茨城大学教育学部)によるご講演「検地はいかにして行われたかー検

地の再現と授業実践を通してー」が行われました。一見現代と無関係に思われる検地という歴史事項を、再現実験という形で現代と結び付け、小学生や大学生を巻き込んでいる様子は非常に生き活きとしており、まさに歴史実践の好例でした。

講演後は、弘道館と水戸城大手門を史跡見学しました。前者では、普段非公開の八卦堂内の弘道館記碑を拝見する機会をいただき、大変貴重な体験をさせていただきました。また最近復元された後者においては、復元過程について詳細なご説明をいただき、かつての水戸城の威容を偲ぶことが出来ました。いずれの解説者も水戸愛にあふれており、初めて訪れた水戸について多くの勉強をさせていただきました。

このように今回も充実した内容だった関歴研でした。本大会の運営・発表に関わった茨城県の先生方、本当にお疲れ様でした。次回ははいよいよ神奈川県での開催となりますが、これまでの関歴研と同じく多くの知見を得られる機会を提供できるよう、微力ながらお力添えできたらと考えております。



修復された弘道館記碑